

# 女子短大生の自己概念と衣服 デザインの嗜好について

Relationship between Self-Concept and Clothing Design  
Preferences for Group of College Women

藤 田 公 子

## 1 緒 言

多くの衣服から特定の衣服を選択したり購買や着装、廃棄等の被服に関する行動をする場合その衣服の機能性、審美性や経済性、社会性、心理学的なこれらの面を総合的に判断し行動を起す。心理学的な面とは機能性や経済性、社会性等の実用的、物理的機能面を除いた感覚的な面、例えば満足度、好き嫌いの嗜好も含まれている。また、この嗜好には多くの因子が影響しているが、その1つに自己概念がある。個々人は現実の自分をどのように知覚しているか、また捉えているかという現実的な自己概念と、自分はこのようであって欲しい、このようでありたいと望んでいる理想的な人間像、すなわち理想とするイメージを持っている。この現実自己と理想自己の抱いているイメージと好きな衣服デザイン、嫌いな衣服デザインの間には何らかの関連があると思われる。そこでイメージの測定法としてよく知られているSD法を用いて自己概念と衣服デザインを共通に評価できる形容語対を選び7段階尺度で評定を行い、好きなデザイン、嫌いなデザインと現実自己と理想自己の抱いているイメージとの関連性について検討を行った。

## 2 研究 方 法

### 2-1 形容語対の選定

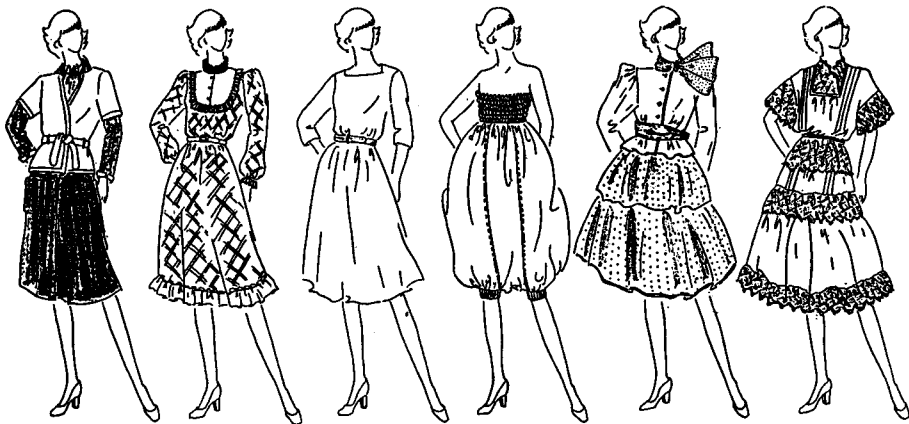
イメージ用語の選定は菅、梁瀬、オズグッド等のものを参考に現実自己および理想自己と衣服スタイルの各刺激に対して共通でしかもすぐ連想する形容詞対25を選定した(表1)。

### 2-2 衣服デザインの選定

選定は1982年7月本学被服専攻2年の学生で行った。参考雑誌は少女対象のものからミセス

表1 自己概念と被服のイメージを測定する形容詞対

1. 男っぽい	——	女らしい	14. 平凡な	——	個性的な
2. 古めかしい	——	新しい	15. がさつな	——	優雅な
3. 風変わりな	——	型にはまった	16. やぼったい	——	しゃれた
4. かたい	——	やわらかい	17. としよりじみた	——	若々しい
5. 活気がある	——	おとなしい	18. 繊細な	——	大胆な
6. 複雑な	——	単純な	19. 魅力的な	——	魅力的でない
7. クールな	——	ホットな	20. 清潔な	——	不潔な
8. あっさりした	——	しつこい	21. 上品な	——	下品な
9. 素朴な	——	華麗な	22. 地味な	——	派手な
10. 落つきのある	——	落つきのない	23. 大人っぽい	——	子供っぽい
11. 進歩的な	——	保守的な	24. 安定している	——	不安定な
12. ゆったりした	——	きゅうくつな	25. モダンな	——	古風な
13. 明るい	——	暗い			



1図 選定衣服デザイン

対象のもの迄の年齢中を広く、また雑誌の種類はファッション専門誌から週刊誌にわたる多種類のものからデザインを集めその中から予備調査により6体のデザインを選定した。選定に際して内山等の研究結果を参考にして、ファッションナブルのもの、流行おくれのもの、デコラティブのもの、シンプル、素朴、華麗なデザインに属すると思われるデザイン6体を選定した(1図)。なお、調査はデザインの形態的な要因のみで行いたいために錯視を出来るだけ避けるように、これらのデザインは同ポーズ、同髪形、同じ靴で無彩色画とした。

### 2-3 質問紙作成

質問紙は質問IよりIVよりなり、夫々の質問紙に形容詞対25をランダムイズし、7段階尺度で評定するように用意をした。但し質問IVは6体のデザインの好き嫌いを評価する質問紙とした。

2-4 調査の概要

i) 調査対象者 本学家政学科学生150名

ii) 調査方法 集団調査法

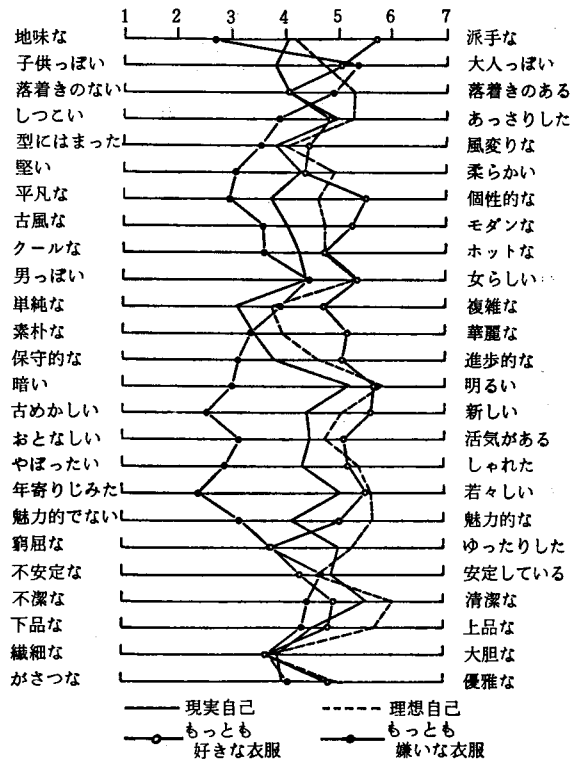
iii) 調査期間 調査は1982年10月～12月に行い、まず質問Ⅰ、Ⅱを次にⅢ、Ⅳを実施した。なお、調査Ⅰ、Ⅱと調査Ⅲ、

Ⅳは被験者の疲労や慣れを考慮し、期間を10日～2週間あけた。

iv) 回収状況 回収数119名  
回収率80%

2-5 分析方法

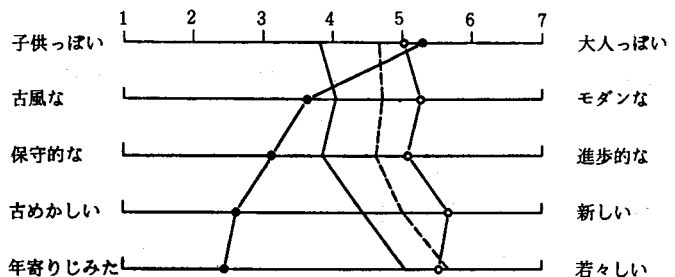
評定した尺度値の平均を基に現実自己、理想自己、好きなデザイン、嫌いなデザインの4刺激のSD尺度のプロフィールを作成した。次いでオズグッドのDスコアの考え方をもとに各刺激間の類似指数、類似率を求め数量化Ⅳ類によって現実自己、理想自己と6体のデザインイメージの距離関係を検討した。



2図 各刺激のイメージ

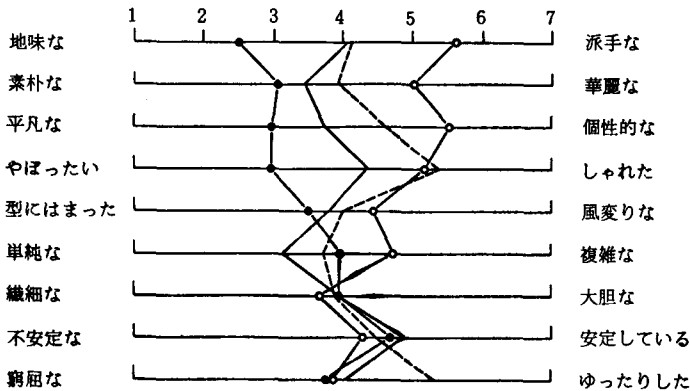
3 結果および考察

質問紙のⅠ～ⅢのSD法による7段階評定の数値化したものを基に各刺激に対する評価点の平均値を求めた。次にその平均値をもとにプロフィールを描いた。2図は各刺激のSDプロフィールを示したものである。また、内山等によって、婦人服イメージは時代性、

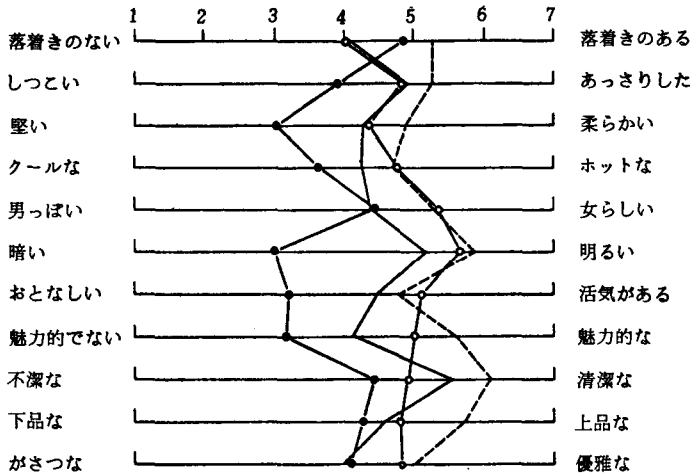


3図 時代因子

女子短大生の自己概念と衣服デザインの嗜好について



4図 様式因子



5図 情緒因子

様式性情緒性の三因子で構成されることがわかっているため、これを参考に25の形容詞対を時代因子、様式因子、情緒因子を示すとされる因子グループに分け理想的自己、現実的自己、もっとも好きな衣服、もっとも嫌いな衣服のSDのプロフィールを描いた(3図・4図・5図)。

3図の時代因子を示す形容詞対では全項目にわたり理想自己は現実自己よりも高い得点位置を示し、好きなデザインは理想自己よりもさらに高く、特にモダンな進歩的な、新しいが高い。また嫌いなデザインは古風な、保守

的な、古めかしいとしよりにじみが低く現われ、現実自己よりもさらに低くあらわれている。

様式因子4図では理想自己、現実自己はいずれも2項目以外はすべて理想の自己が現実の自己より高い位置を示し、好きなデザインは5項目が理想自己よりさらに得点の高い位置を示している。それに対し嫌いなデザインは地味な、素朴な等の6項目が理想自己、現実自己よりも低い所を示した。

情緒因子を示す形容詞対5図では理想自己はやはり現実の自己よりも高い得点位置を示し、ホットな、女らしい、明るい、優雅な項目は理想自己と好きなデザインが殆んど近い位置の状態を示しており、活気があるの項目はどのものよりも高い位置を示した。嫌いなデザインは全体的に理想自己、現実の自己よりも差が大きく低い位置を示した。

前述のプロフィールから理想的自己、現実的自己、好きな衣服、嫌いな衣服のイメージの違いが明らかになったが、これをさらに定量的に検討するために、オズグッドのDの考え方を

女子短大生の自己概念と衣服デザインの嗜好について

表2 プロフィールの類似指数R (%)  
時代因子

	現実自己	理想自己	好 き	嫌 い
現実自己		87.79	81.10	72.88
理想自己			92.59	66.24
好 き				62.12
嫌 い				

様式因子

	現実自己	理想自己	好 き	嫌 い
現実自己		90.93	78.60	85.44
理想自己			83.87	79.38
好 き				71.74
嫌 い				

情緒因子

	現実自己	理想自己	好 き	嫌 い
現実自己		85.45	90.25	82.34
理想自己			88.83	72.59
好 き				77.19
嫌 い				

間の類似性が大きいことが推察される。そこで現実、理想の自己概念と6体すべてのデザインについて類似率を算出し、この類似率を用いて数量化IV類により分析を行った。表3は各刺激

表3 現実、理想自己、衣服デザイン6体の類似度

	1	2	3	4	5	6	7	8
1		.876	.807	.874	.891	.720	.823	.867
2			.733	.839	.836	.692	.856	.802
3				.803	.849	.623	.716	.846
4					.832	.690	.839	.871
5						.660	.768	.849
6							.774	.728
7								.813
8								

1. 現実自己 2. 理想自己 3. LIKE 5 4. LIKE 3  
5. LIKE 2 6. LIKE 6 7. LIKE 1 8. LIKE 4

もとにプロフィールの類似指数を次式により求めた。

$$D = \sqrt{\sum d^2_{AB}}$$

D; 類似指数

$d_{AB}$ ; AB 両概念の各尺度における  
平均値の差

オズグッドの D は形容詞対が同数であればプロフィールの類似性が小さなほど大きな値を示すことになるので、ここで形容詞対の数によらない類似性の表示法として類似指数が定義されている。

$$R = \left(1 - \frac{D}{\sqrt{(k-1)^2 \times i}}\right) \times 100$$

R: 類似度

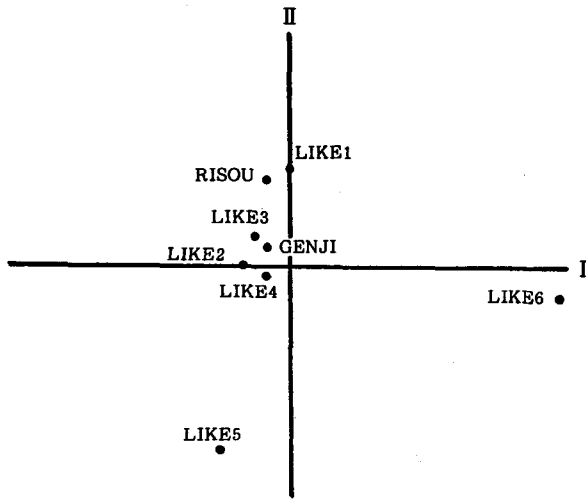
この式を用いて類似性の程度を 0~100の間の指数として表わした(表2)。

表2から理想自己、現実の自己、もっとも好きなデザイン、もっとも嫌いなデザインのイメージの相互の関係が分かる。表2から理想自己、現実自己ともっとも好きなデザイン

表4 数量化IVによる分析結果

	1軸	2軸	3軸
1. 現実	- 0.10697	0.09855	- 0.18442
2. 理想	- 0.11653	0.37348	- 0.24093
3. LIKE 5	- 0.26842	- 0.79613	0.28399
4. LIKE 3	- 0.12964	0.12512	- 0.03226
5. LIKE 2	- 0.17803	- 0.01754	- 0.48903
6. LIKE 6	0.91824	- 0.15839	- 0.06173
7. LIKE 1	- 0.01333	0.41730	0.76277
8. LIKE 4	- 0.10531	- 0.04238	- 0.03838
固有値	3.134	1.952	1.409
(%) 累積寄与率	29.5	47.9	61.2

## 女子短大生の自己概念と衣服デザインの嗜好について



6図 現実自己、理想自己、6体のデザインとの散布図

た。

## 4 要 約

自己の抱いているイメージには、理想的な自己イメージと現実の自己イメージとがある。その2概念と提示された6体のデザインの嗜好との関連性をSD法により検討した。2概念と最も好かれたデザインと最も嫌われたデザインについての全被験者の評定尺度値の平均を用いてプロフィールを作成した結果、そのプロフィールから好きなデザインと理想自己とが類似していることがわかった。次にその類似性を定量化するため、類似指数、類似率を求め、数量化IV類によって分析した。その結果理想自己の近くに最も好きなデザインの衣服が、嫌いなデザインの衣服は理想の自己よりも遠い位置に布置された。

このことから我々が好きなデザインとして購買したり着装したりする被服は、個々人が理想とする自己イメージすなわち自分を高めたい、こうありたい、こうあって欲しいという理想的な人間像であることがわかる。つまり理想自己が衣服デザインの嗜好決定に反映していると見てよいのではないかと思われる。

本研究にあたりまして御協力下さいました岩佐聡子助手はじめ洋裁研究室の助手の皆様、本学学生の方々に心より厚く御礼申し上げます。なお本研究は第35回日本家政学会総会（大阪市立大学）において発表したものに1部加筆したものである。

## 参考文献

- 1) 菅佐和子 教育心理学研究 第23巻第4号 p. 19~24 ('75)。

間の類似度を示す。表4は数量化IV類による分析結果を示す。この結果、固有値の大きい2次元までとりあげ、散布図を描いた(6図)。

理想自己、現実自己、好まれた衣服は互いに近い位置にあり、嫌われた衣服(LIKE5、6)は遠く離れている。さらに、もっとも好まれた衣服は理想自己と近い位置にあり、理想自己に近いイメージを与える衣服が好まれる傾向のあることがわかった。

女子短大生の自己概念と衣服デザインの嗜好について

- 2) 梁瀬度子 人間工学 Vol. 14 No. 6 ('78)。
- 3) 被服科学総論(下巻) 日本繊維機械学会被服学体系分科会編。
- 4) 岩下豊彦 SD 法によるイメージの測定 川島書店。
- 5) 内山生 繊維機械誌25.3 ('72)。
- 6) 齊藤幸子 人間工学 Vol. 14 No. 6 ('78)。
- 7) 被服心理学研究分科会 56年(3)。
- 8) 被服心理学研究分科会 57年(1)。
- 9) 被服心理学研究分科会 57年(4)。
- 10) 被服心理学研究分科会 58年(6)。
- 11) 梶田庸 織消誌 Vol. 24, No. 6 ('83)。
- 12) 神山進 被服のスタイル嗜好性とパーソナリティー被服心理学研究分科会別刷。